

フィンドレー大学奨学生レポート 8月

「はじめての留学」

自己紹介

どうもはじめまして、平成 24 年度フィンドレー大学奨学生の澤井健と申します。留学という機会を与えてくださった埼玉県、また、留学という選択に、間髪いれず首を縦にふってくれた両親に感謝しています。なぜ、アメリカ留学に興味があったかという、実用的な英語を身に付けたかったからです。英語を勉強するにつれて、英語圏に留学をすることで、いままで独学で勉強してきた実用的でない英語を、コミュニケーションの道具として使用することで、生きた英語を身につけたい、という思いが強くなっていきました。そこで、そのような機会を探しているとき、偶然、フィンドレー大学奨学生プログラムのポスターを見つけたので、挑戦しようと決心しました。

フィンドレー大学での授業

午前中は、フィンドレー大学にて、IELP (Intensive English Language Program) という英語を第二言語として勉強する学生のためのクラスを受講しています。1 クラスには、15 人くらいの学生がいます。クラスの学生たちは日本、中国、台湾、サウジアラビアなど様々な国の出身で、日本にいたのでは、会話する機会がないような人たちと、英語で会話をすることができるので、とても新鮮です。授業内容は、Composition, Reading, Listening など英語学習における基本的なものですが、たびたび授業内容はずれ、それぞれの国の文化の違いなどを議論したりします。このクラスで痛感させられることは、他国の学生の積極性です。皆、授業進行を遅らせるということを臆することなく、教師に質問をどんどんぶつけていたり、自分の意見を述べたりします。彼らは、自分の使う英語が稚拙であっても、己の発言に自信を持っているため、クラス全体に言いたいことが伝わります。私も彼らの姿勢を見習い、もう少し己に自信を持ち、積極的に授業に参加したいです。



美しいフィンドレー大学

ニッシンブレキオハイオでのインターンシップ

午後は、フィンドレー市内にあるニッシンブレキオハイオ（以下 NBO）でインターンシップとして働いています。基本的に、インターンシップは 2 時～6 時までの 4 時間行います。最初に NBO に行った時、工場で働く人々に圧倒されました。なぜなら、大学では現地の人々と話す機会がないので、こんなに多くのアメリカの方に囲まれるのは初めてだったからです。皆、体つきがよく強そうな方ばかりでした。インターンシップが 2 週間目に入り、ようやく環境に慣れることができました。ただ、現場で働く人々の使う英語はとても速いので、彼らの言っていることが現状ではよくわからない状況です。今後、何かを説明されてわからないとき、なるべく諦めずに質問をするように心がけようと思います。

雑記

NBO から機械工学系の奨学生 2 人に乗用車が 1 台貸与されています。私は、日本で運転免許を取得しましたが、ろくに自動車を運転したことがなく、ただのペーパードライバーでした。アメリカでは自動車のウィンカーとワイパーの位置が日本とは反対で、走行する車線も反対なので、最初は戸惑いましたが、同じ奨学生である相方の荒瀬君の丁寧な運転指導により、今では多少余裕を持って運転できるようになりました。フィンドレー市には、フリーハイウェイが通っているので、これからいろんなところに自動車で行くことが楽しみであります。



車とアパートとドライバー